

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

Stay Smile 高原のアーティストを訪ねて

東に八ヶ岳、西に入笠山を仰ぎ見る、さわやかな高原の町、富士見。この地に生まれ、または惹かれて制作する、素敵なアーティストたちを紹介します。

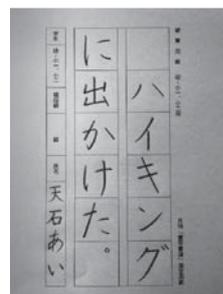
【今月のアーティスト】 樋口 英一 (ひぐち えいいち) さん 書作家・富士見町在住

樋口英一さんは富士見町出身の書作家で、学生の頃から中国の明末清初時代の作家の古典作品を研究し、作品を制作してきました。現在は、東海大学付属第三高等学校と長野県諏訪実業高等学校で講師として書道を担当しながら、自宅で書道教室を主宰しています。

最近では、より芸術性の高い作品や書風を目指しており、文字に限らず「和モダン」をテーマに様々な作品を制作しています。また、硬筆を中心とする「書写」にも注力しており、美しく「誰が見ても読みやすい字」を追求しています。芸術としての「書」と、国語としての「書写」を両輪に捉え、作家として書芸を、教育者として書道教育の普及と実践に取り組んでいます。

樋口さんは、「美術 (fine arts)」と「書」を大別する括りは「墨」であり、墨を用いた作品は「書」であると考えています。その「書」を創作する上で大切なのが良質な墨と硯、そして最も重要なのが墨を磨る「水」なのだそうです。良い墨色は良い水から生まれ、特に川の清流を汲んだ水を使うと、きれいに発墨するそうです。私たち人間にとっても水は不可欠で大切なものです。一朝一夕では極められない書の世界において、長く続けるためには、健康な体と心で日々を暮らすことが肝要です。その健康を支えてくれる、新鮮で清い空気と水が富士見町には豊富にあります。これこそ樋口さんが富士見町で制作する理由です。

【Information】 樋口さんの作品は、富士見町の「JA信州諏訪めぐりモールふじみ 春風」、諏訪市の「うなぎの小林」、原村の「遊膳長田」各店内で展示中です。看板の揮毫も樋口さんによるものです。また、樋口さんの自宅で作品を鑑賞できます。訪問される際は、樋口さんまでご連絡ください。☎:0266-64-2482 住所:富士見町境6066-2 近々ホームページを公開予定です。Facebookでも情報を発信中です! 樋口さんのFacebook URL <https://www.facebook.com/eiichi.higuchi.18>



▲線のヴァリエーション ▲小学二年生硬筆参考書き

文: 前島孝一 (小海町高原美術館館長・清里フォトアートミュージアム職員) 富士見町富士見在住 facebook <https://ja-jp.facebook.com/koichi.maeshima.1>

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの領分を守るために~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「失敗する」ということ

ままごと遊び用のテーブルに小さな手をかけ立とうとしている1歳前の赤ちゃん。なかなかお尻を持ち上げられなくて、何度も何度も繰り返します。テーブルの上の世界が見たい、そう思ってトライしているのでしょうか。時には、手がすべってその拍子にテーブルの縁で頭を打って大泣き、なんていうこともあります。でも、痛かったからもうやらない!とはならず、またトライし、失敗とトライを繰り返すうちに自分でつかまり立ちができるようになります。

こんな光景は、小さな赤ちゃんのいるご家庭や「AiAi」のような子育てひろばではあたりまえです。赤ちゃんが、寝返り、おすわり、つかまり立ち、と失敗とトライを繰り返しながら自分の力で獲得していく時、大人は暖かい気持ちで見守り応援します。だから赤ちゃんはどんどん自分の力で育ちます。

ところが、赤ちゃんが幼児、小学生、中学生と成長していく過程で、失敗は「恥ずかしいこと」に変わっていき、なるべく失敗しないようにすることに気をを使うようになります。そして失敗を恐れてトライすることもあきらめるようになります。

でも、子どもが成長するために一番大切なことは「自分でやって」「失敗し」「考え」「またやってみる」こと。この繰り返しが成長のための栄養となるのです。

ふじみ子育てネットワークは、子どもたちが安心して失敗できるように、彼らの失敗とトライをおおらかに見守る大人がたくさんいる富士見町になることを願って活動しています。



Stay Smile 義援金のお礼と報告

日本赤十字社富士見町分区

問 住民福祉課 社会福祉係 ☎62-9144

平成25年度に実施した災害義援金・救援金の募集については、多くの方々にご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。お寄せいただいた義援金・救援金は、全額、日本赤十字社長野県支部へ送金いたしました。

〈お寄せいただいた義援金〉

・伊豆大島等台風26号災害東京都義援金	86,120円
・フィリピン台風救援金	21,619円
・東日本大震災義援金(平成25年度受付分)	78,371円
(平成23年からの受付総額)	16,173,720円)



なお、東日本大震災義援金の受付は平成27年3月31日まで延長され、引き続き役場1階町民ホール募金箱にて受付しています。また、5月は赤十字創立の月にあたることから「赤十字運動月間」とされ、この月間を中心に、区の方々の協力のもと、赤十字活動資金(社資)の募集活動を行っております。赤十字の活動は皆さまからお寄せいただく活動資金によって支えられています。

今後とも皆さまの温かいご支援・ご協力をお願いします。



▲平成25年生活展にて、赤十字奉仕団・富士見中学校の皆さんのご協力のもと、募金活動を行いました。

Stay Smile 普段の練習から真剣に取り組む

富士見中学校 陸上競技部



私たち陸上競技部は、現在、2・3年生、27人で活動しています。陸上競技部では、毎日の学校生活、日常生活を大切にすることを第一として、日々練習に励んでいます。2月の大雪により社会体育等出来なくなったところを、地域の皆さんが雪かきをしてくれたおかげで、練習を早めに再開することが出来ました。本当にありがとうございました。

陸上部は年間を通して、たくさんの大会や記録会に出場しています。大きなものだと、全日本中学校陸上選手権大会で入賞したり、長野県の代表として都道府県対抗駅伝に出場したりした選手もいました。普段の練習から真剣に取り組んだ結果が出たのだと思います。また、大きな大会でなくとも、全員が「自己ベスト更新」を目指して、全力で競技をしています。

さらに陸上部では、挨拶、返事を徹底しています。当たり前のことです

が、登下校時にすれ違った人と挨拶をし、校内で先生、先輩、友達に出来るだけ大きな声で、聞こえる声で挨拶をしています。また、大会などでは、自ら進んで応援するなど、積極的に物事に参加することも意識しています。

陸上の大会は、個人との戦い、自分との戦いです。時には、リレーや駅伝のように仲間と協力する団体戦もあります。そんな中で、記録が伸びない時もあります。そんなときは、自分で何がいけないのかを探していくことを大切にしています。部長として、アドバイスを聞いたり他の人を見たりして、自分のいけないところを見つけて直していけることを目標にして、さらにやるべき事を徹底した陸上競技部になりたいです。今後も、富士見中陸上競技部の応援よろしくをお願いします。

(陸上競技部 部長 近藤大地)

